



明けまして、おめでとうございませう。謹んで新年のお慶びを申しあげます。

本年は、辰年です。中国伝来の十二支では、本来植物が循環する様子を表しているのに、十二支の五番目に草木の形が整った様子を表す「辰」がきます。

動物が十二支に充てられたとき、「龍」の文字が充てられました。龍は、十二支の中で唯一架空の生き物です。中国では、靈獣として皇帝の象



報 告 館 資 料 里 鶴 夕

令和6年1月10日

第 157号

発行 夕鶴の里

TEL 47-5800

徴とされました。日本では、水神と一体化して龍神となりました。

もう一つ、「竜」の文字も使われます。竜は龍の略字ですが、古字でもあります。

南陽市の赤湯地区に伝わる伝説民話『白竜湖の琴の音』は、まさしく竜神にまつわる物語です。また、高島町出身の童話作家浜田広介先生の作品である『りゅうの目の涙』にも、水神としての「りゅう」が登場します。

さて、南陽市夕鶴の里は、平成五年四月二十五日の開館以来、四十万人を超える入館者をお迎えしました。語り部の館は、昔話や民話の語りを通して地域の伝統文化を学びながら、情操豊かな心を育むことができます。また、資料館では、養蚕や繰糸、製

糸業に係る地域の歴史を学ぶことができます。

特に、昔話や民話には、計り知れない奥深さがあります。人としての心構えや事の善悪・いたわり・助け合い・倫理感などを教えてくれます。こうしたよさを伝えていかなければ、地域の文化や歴史が失われ、忘れ去られていくこととなります。目に見えないものではありますが、極めて大切なことだと考えています。夕鶴の里が多くの皆様に愛され、親しまれますよう職員・関係者一同一丸となつて努力して参ります。これまで同様、ご支援・ご鞭撻を賜りますようお願いを申しあげ、新年の挨拶といたします。

夕鶴の里
館長 山田和男



NCVにて
「白竜湖の琴の音」
が放送されます

NCVの番組「知ってる？ 地域の歴史」にて、白竜湖の歴史が取り上げられます。番組の中では「白竜湖と民話」と題したコーナーで民話会ゆうづる白岩けい子会長が「白竜湖の琴の音」の紙芝居イラストと共に語りを披露します。是非ご覧ください。

放送予定

一月中は毎週放送予定です。

◎月曜日

・二三時一五分

◎木曜日

・六時四五分

・一五時四五分

◎金曜日

・一四時一五分

◎土曜日

・一〇時四五分

・一五時四五分

団子さげの由来

・武田正先生のメモより・

一月の昔のあそびは「だんご下げをしよう」です。夕鶴の里では三箇所にだんごの木が飾られています。

先日、以前開催された夕鶴の里でのだんご下げの資料を調べていると元夕鶴の里専門研究員の武田正先生が平成十四年に書かれた「団子さげの由来」と題したメモを発見しましたのでご紹介します。

一 小正月（旧暦一月十五日）は満月なので十五夜の日で、農村では一日より重視された。

二 小正月の行事

秋の豊作を祈願して、あらかじめお祝いをする「予祝行事」という。

① 雪中田植え

藁、カヤ、青そ殻を束ねて「苗」として十二本（ウルシは十三本）を植えて、豊作を祈願する。

② 門松集め

ヤハエローのために家いえから門松を集めてくる。

③ 団子さげ

ダンゴの木（みず木）にダンゴをさげる―マユが豊作となるように蚕神を招待してお祝いをする。

④ 成り木責め

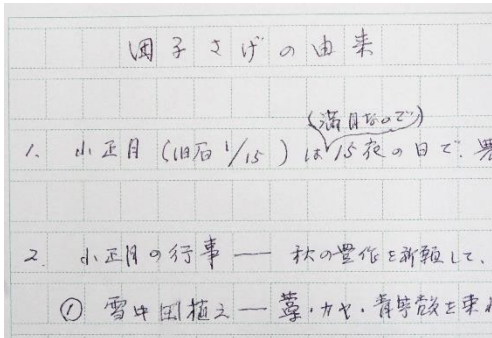
団子の煮汁で、敷地の「成り木」（果樹＝カキ、スモモ、桃、ナシなど）を夫がとる真似をし、「なるか、ならぬか、ならぬと切るぞ」と言えば、嫁は「なりません、なりません」と言つて団子の煮汁を木の根にかける。

⑤ ヤハエロー

夕方暗くなると門松を積み重ねたものに火をつける。それで餅を焼いて食べ、書初めの習字を焼く。

⑥ カセドリ

今は上山温泉に残っているが、「稼ぎ鳥」を迎えて、その年の豊作を祈願する。



武田正先生自筆の原稿

◆ 次回展示 ◆

夕鶴のひな飾り展

令和六年二月六日（火）～

五月十二日（日）

（会場）

夕鶴の里資料館

三階特別展コーナー

今年も二月より夕鶴の里のひな飾り展が始まります。

今年から制作者が一人増え昨年度よりもより華やかな展示になると思います。ご来館いただいたお客様の中には高島町の道の駅たかはた、結城豊太郎記念館を渡り歩かれる方もおり、寒い季節ではありますが、おきたま雛回廊を楽しまれてはいかがでしょうか。



昔のあそび

だんご下げをしよう！

日にち：1月20日（土）

時間：10時～

場所：夕鶴の里

参加費：100円

定員：10名

問合せ：夕鶴の里 47-5800

※定員になり次第受付を終了します。

無断駐車はご遠慮ください。

夕鶴の里駐車場への無断駐車は除雪の妨げになりますので、ご遠慮くださいますようお願いいたします。やむを得ず駐車する場合は必ずご連絡ください。

TEL 47-5800